

柴田雄次 SHIBATA Yuji (1882-1980)



大正・昭和期の日本の指導者的科学者。
分光学的手法を使って錯体化学、生化学を研究。
名古屋大学初代理学部長。

経歴

1907年	東京帝国大学理学大学化学科 卒業
1910年1月-1910年4月	東京帝国大学理学大学 講師
1910年5月-1913年10月	ヨーロッパ留学 (ライプチヒ大学 ハンチ、チューリッヒ大学 アルフレート・ウェルナー、パリ大学 ジョルジュ・ユルバン)
1913年7月-1919年	東京帝国大学理学大学化学科無機化学講座 助教授
1917年7月	理学博士 取得
1919年-1942年	東京帝国大学 教授
1942年-1948年	名古屋帝国大学 教授(理学部長)
1949年-1957年	東京都立大学 初代総長
1962年-1970年	日本学士院 院長
1980年1月28日	長逝(98歳)

受賞歴

1917年	日本学士院恩賜賞「金属錯塩の分光化学的研究」
1962年	文化功労者顕彰
1973年	正三位勲一等瑞宝章

主要な研究内容および業績

- 分光器を駆使した金属錯塩の酵素的酸化還元作用に関する研究
- 植物色素の吸収スペクトル分析
- 希土類を含む鉱物の研究

参考

- [wikipedia 柴田雄次](#)
- [日本の科学者 100 人 柴田雄次](#)

菅原健 *SUGAWARA Ken* (1899–1982)



地球科学者。
地球水環境学の創始。
地球化学、海洋学の国際組織の発展に尽力。

経歴

1923 年	東京帝国大学卒業
1925 年	博士(東京帝国大学)
1941 年–1963 年	名古屋帝国大学 教授
1982 年 5 月 9 日	長逝(82 歳)

受賞歴

1958 年 日本学士院賞「水による物質移動循環機構の地球化学的研究」

主要な研究内容および業績

- 湖沼における物質変化や物質移動の定量化
- 「Lake Metabolism」(湖沼代謝)概念の確立
- 海水、河川水、岩礁水などを対象とする「地球にとっての水」研究

参考

- [コトバンク 菅原健](#)

- [名古屋大学理学部・大学院理学研究科広報誌「理フィロソフィア」No.9 『時を語るもの 菅原健博士－「地球にとっての水」を見つめて』](#)

山崎一雄 YAMAZAKI Kazuo (1911–2010)



無機化学者。
錯体化学の代表者であるだけでなく、
古文化財の科学的調査研究にも尽力。

経歴

1933 年	東京帝国大学卒業
1941 年	理学博士
1941 年–1974 年	名古屋帝国大学 教授
1989 年	日本学士院会員
2010 年 4 月 10 日	長逝(99 歳)

受賞歴

- 1960 年 日本学士院恩賜賞「醍醐寺五重塔の壁画の共同研究」
- 1982 年 勲二等瑞宝章
- 1988 年 国際古文化財保存学会フォーブス記念賞

主要な研究内容および業績

- 金属イオン周辺における種々イオンならびに分子結合の金属錯体の化学的、分光学的研究
- 紫外線、赤外線、X 線などを用いた化学分析手法を用いた古文化財の調査

参考

- [wikipedia 山崎一雄](#)
- [名古屋大学理学部・大学院理学研究科広報誌「理フィロソフィア」No.11 『時を語るもの 山崎一雄博士－化学者の目で古文化財を見つめる』](#)

森野米三 MORINO Yonezo (1908–1995)



物理化学者。東京大学名誉教授。
独自に開発した分光装置を用い、
構造化学研究の基礎を築いた。

経歴

1931年	東京帝国大学理学部化学科 卒業
1931年–1937年	理化学研究所 研究生(片山研究室)
1937年	理学博士(液体及び液体混合物ノ界面自由エネルギーニ就テ)
1937年–1940年	東京帝国大学 助手
1940年–1942年	東京帝国大学 助教授
1942年–1943年	名古屋帝国大学 講師
1943年–1948年	名古屋帝国大学 教授
1945年–1948年	東京大学 教授(兼任)
1948年–1969年	東京大学 教授(専任)
1970年–1978年	相模中央化学研究所所長
1971年–1972年	社団法人日本化学会会長
1972年–1978年	財団法人相模中央化学研究所副理事長
1976年–1981年	分子科学研究所評議員
1976年–1991年	財団法人東レ科学振興会評議員
1978年–1993年	財団法人相模中央化学研究所最高顧問
1982年–1995年	財団法人伊藤科学振興会評議員

1982年-1992年 財団法人東レ科学振興会理事
1984年-1990年 岡崎国立共同研究機構分子科学研究所研究顧問
1993年-1995年 財団法人相模中央化学研究所顧問
1995年10月24日 長逝(87歳)

受賞歴

1942年 日本化学会櫻井褒賞「分子の基準振動に関する研究」
1964年 日本学士院賞「気体電子線回折およびマイクロ波分光による分子構造の研究」
1973年 藤原賞
1980年 勲二等瑞宝章
1981年 文化功労者顕彰
1992年 文化勲章
1995年 勲一等瑞宝章

主要な研究内容および業績

- 気体電子線回折およびマイクロ波分光による分子構造の研究
- 多原子分子の振動と回転の相互作用の解明

参考

- [wikipedia 森野米三](#)
- [コトバンク 森野米三](#)
- [名古屋大学理学部・大学院理学研究科広報誌「理フィロソフィア」No.13 『時を語るもの 山崎一雄博士ー構造化学の礎を築く』](#)

江上 不二夫 *EGAMI Fujio* (1910–1982)



生理化学者。

戦後の日本の生化学を牽引した一人。日本学術会議会長、国際生命の起源学会会長などを務めた。

経歴

1933 年	東京帝国大学理学部化学科 卒業
1934 年–1937 年	フランス政府給費留学生としてストラスブール大学、パリ大学に留学
1941 年–1943 年	東京帝国大学理学部 助手
1943 年–1944 年	名古屋帝国大学理学部第三講座(有機化学) 助教授
1944 年–1958 年	名古屋帝国大学理学部 教授
1958 年–1968 年	東京大学理学部 教授
1968 年–1971 年	埼玉大学理工学部 教授併任
1969 年–1971 年	日本学術会議会長
1971 年–1980 年	三菱化成生命科学研究所初代所長
1977 年–	国際生命の起源学会会長
1980 年–	同名譽所長
1982 年	長逝(71 歳)

受賞歴

1953 年	中日文化賞「生体酸化還元酵素の科学的研究」
1954 年	日本化学会賞「細菌毒素および細菌酵素の化学的研究」

- 1966年 朝日文化賞「リボヌクレアーゼ T1 の研究」
1967年 毎日出版文化賞(「生命を探る」(岩波新書))
1971年 レジヨンドヌール勲章日本学士院賞「リボヌクレアーゼに関する研究」

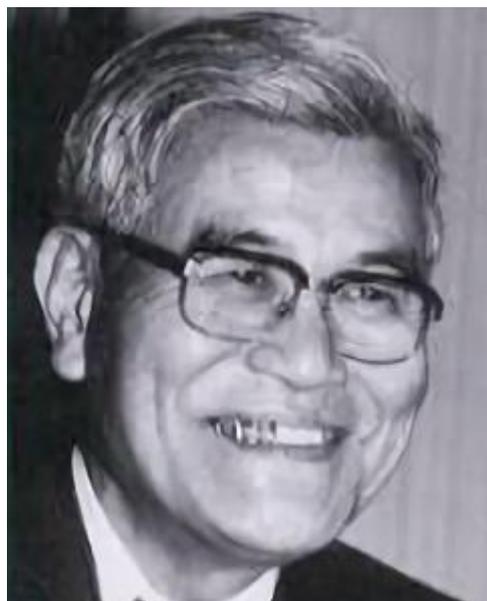
主要な研究内容および業績

- 細菌の硝酸還元系の研究
- タカジアスターゼからリボヌクレアーゼ T1 の分離精製
- 生命の起源の研究

参考

- [wikipedia 江上不二夫](#)

平田義正 *HIRATA Yoshimasa* (1915–2000)



有機化学者、天然物化学者。名古屋大学名誉教授。
教育者としても傑出しており、
門下から多数の有名研究者が巣立っている。

経歴

1941年	東京帝国大学理学部化学科 卒業(久保田勉之助 助教授)
1941年	東京帝国大学理学部化学科大学院 入学
1943年–1944年	東京帝国大学理学部化学科 助手
1944年1月–5月	名古屋帝国大学理学部 講師
1944年6月–1953年	名古屋帝国大学理学部 助教授
1952年–1953年	訪問研究員(ハーバード大学 ルイス・フィーザー教授)
1954年–1979年	名古屋大学 教授
1961年–1965年	名古屋大学評議員
1965年–1966年	名古屋大学学生部長
1977年–1978年	日本化学会副会長
1979年–1988年	名城大学教授
1980年–1995年	テトラヘドロン、テトラヘドロンレターズ評議員
2000年3月5日	長逝(84歳)

受賞歴

1941年 中日文化賞

- 1965年 朝日賞日本化学会賞
- 1977年 日本学士院賞「微量天然有機物の研究」藤原賞
- 1987年 叙勲二等授瑞宝章
- 1990年 文化功労者賞
- 1996年 有機合成化学協会特別賞
- 2000年 叙正四位、授旭日重光章

主要な研究内容および業績

- 天然物の生理作用を有する極微量物質の分離・構造決定
- テトロドトキシンなどの構造決定

参考

- [wikipedia 平田義正](#)
- [Chem-Station 世界の科学者データベース 平田義正](#)

山寺秀雄 YAMADERA Hideo (1924-)



無機化学者。
名古屋大学名誉教授。大同大学名誉教授。
金属錯体の吸収スペクトルを説明する山寺則を創始。

経歴

-1967 年	立教大学 教授
1967 年-1987 年	名古屋大学理学部 教授
1987 年-1993 年	大同工業大学工学部 教授
1994 年-	大同工業大学工学部 非常勤講師

受賞歴

1981 年	日本化学会賞
1997 年	日本学士院賞「金属錯体の分光学における山寺則の創始と配位構造の研究」

主要な研究内容および業績

- 金属錯体の分光学的研究
- 金属錯体の吸収スペクトルを説明する山寺則の創始

参考

- [wikipedia 山寺秀雄](#)
- [科学研究費助成事業データベース 山寺秀雄](#)

野依良治 NOYORI Ryoji (1938-)



有機化学者。

独立行政法人理学研究所理事長、名古屋大学特別教授。

ルテニウム錯体触媒による不斉合成反応の研究が評価され、2001年にノーベル化学賞を受賞。

経歴

1961年3月	京都大学工学部工業化学科卒業
1963年3月	同大学大学院工学研究科工業化学専攻修士課程修了
1963年4月-1968年1月	京都大学工学部助手
1968年2月-1972年8月	名古屋大学理学部助教授
1969年1月-1970年3月	米国ハーバード大学博士研究員
1972年8月-1996年3月	名古屋大学理学部教授
1979年4月-1991年3月	同大学化学測定機器センター長(併任)
1991年10月-1996年9月	新技術事業団創造科学推進事業「野依分子触媒プロジェクト」 総括責任者(併任)
1992年4月-1996年3月	文部省科学官(併任)
1993年9月-1996年12月	九州大学有機化学基礎研究センター教授(併任)
1996年2月-2001年1月	文部省学術審議会委員
1996年4月-2003年9月	名古屋大学大学院理学研究科教授(大学組織換えに伴う)
1997年1月-1999年12月	名古屋大学大学院理学研究科長・理学部長(併任)
2000年4月-2003年9月	名古屋大学物質科学国際研究センター長(併任)
2001年2月-2003年1月	文部科学省科学技術・学術審議会委員

2001年4月-2003年6月	日本学術振興会学術顧問
2002年4月-2003年9月	名古屋大学高等研究院長(併任)
2002年4月	名城大学非常勤(客員)教授
2002年12月	日本学士院会員
2003年7月-2003年9月	日本学術振興会学術システム研究センター長
2003年7月-2003年9月	科学技術振興事業団研究開発戦略センター長
2003年10月-	独立行政法人理化学研究所理事長
2003年10月-2004年10月	名古屋大学特任教授
2003年10月-2004年9月	日本学術振興会学術システム研究センター名誉所長
2003年10月	科学技術振興機構開発戦略センター首席フェロー
2003年10月	国立大学法人評価委員会委員長
2004年10月	名古屋大学特別教授
2005年2月-2009年1月	文部科学省中央教育審議会委員
2005年2月	文部科学省科学技術・学術審議会会長
2005年10月-2008年9月	日本学術会議会員
2006年10月-2008年1月	教育再生会議座長
2007年5月	天皇皇后両陛下欧州5カ国訪問首席随員
2008年2月-2009年11月	教育再生懇談会構成員
2008年10月	日本学術会議連携会員
2009年4月	文部科学省基礎科学力強化委員会委員長
2009年4月	日本学術振興会第2回HOPEミーティング組織委員長

受賞歴

1971年	日本化学会進歩賞
1978年	松永賞
1982年	中日文化賞
1985年	日本化学会賞
1988年	台北プロスタグランジン会議および中国中央研究院賞
1989年	内藤記念科学振興賞、センテナリーメダル(イギリス王立化学会) フルカ賞(スイス)
1990年	東レ科学技術賞、メルク・シューハルト・チェア(ベルギー)
1991年	カークウッド賞(アメリカ化学会およびエール大学)
1993年	朝日賞 テトラヘドロン賞(イギリス)
1994年	生命科学啓明賞
1995年	日本学士院賞「不斉合成反応に関する研究」
1996年	A. C. コープ学術賞(アメリカ化学会) ボン化学賞(ドイツ)

- 1997年 A. C. コープ賞(アメリカ化学会) キラリティーメダル(キラリティー識別国際会議)
G. ケナー賞(イギリス・リバプール大学)
- 1999年 キング・ファイサル国際賞(サウジアラビア) C.S. ハミルトン賞(アメリカ合衆国・
ネブラスカ大学リンカーン校)
- 2000年 引用最高栄誉賞(化学部門)(ISI-トムソン・サイエンティフィック)
- 2001年 有機合成化学協会特別賞 ウルフ賞(イスラエル) R. アダムス賞(アメリカ化学
会) 化学分野高引用度研究者メンバー(ISI-トムソン・サイエンティフィック) ノーベ
ル化学賞(スウェーデン)
- 2002年 L. サッコーニメダル(イタリア化学会およびサッコーニ財団)
- 2003年 金メダル(ロシア・科学パートナーシップ財団)
- 2006年 分子キラリティー特別賞(分子キラリティー研究機構) A. アヴォガドロ金メダル
(イタリア化学会)
- 2009年 センテナリーメダル(カナダ王立協会)
- 2010年 ロモノーソフ金メダル(ロシア科学アカデミー) バートン・ゴールドメダル(イギリス
王立化学会)
- 顕彰等
- 1998年 文化功労者顕彰
- 2000年 文化勲章受章
- 2001年 日本化学会特別顕彰 愛知県学術顕彰 名古屋大学学術顕彰
- 2002年 衆議院感謝状 参議院感謝状 内閣総理大臣感謝状および賜杯 名古屋市学術
表彰 日進市名誉市民

主要な研究内容および業績

- 触媒的不斉水素化反応の開発
- BINAP の開発
- メントールの量産化の実現

参考

- [研究室ホームページ プロフィール](#)

下村脩 SHIMOMURA Osamu (1928–2018)



有機化学者。海洋生物学者。
オワンクラゲの緑色蛍光タンパク質の発見。
2008年にノーベル化学賞を受賞。

経歴

1951年	長崎医科大学附属薬学専門部(現 長崎大学薬学部)卒業
1960年	理学博士(名古屋大学)
1951年	長崎大学薬学部実験実習指導員
1959年–1963年	長崎大学薬学部助手
1960年–1963年	プリンストン大学研究員(フルブライト奨学金)
1963年	名古屋大学理学部附属水質科学研究施設助教授
1965年–1982年	プリンストン大学上席研究員
1981年–2000年	ボストン大学客員教授(兼任)
1982年	ウッズホール海洋生物学研究所上席研究員
2001年	ボストン大学名誉教授
2008年	ウッズホール海洋生物学研究所特別上席研究員
2010年	学習院大学名誉博士(理学)
2014年	埼玉県深谷市親善大使
2018年	逝去(90歳)

受賞歴

2004年	Pearse Prize(英国王室顕微鏡学会)
2005年	Emile Chamot Award(イリノイ州顕微鏡学会)
2007年	朝日賞
2008年	ノーベル化学賞
2008年	文化功労者顕彰
2008年	文化勲章
2013年	米国科学アカデミー会員
2018年	従三位

主要な研究内容および業績

- 生物発光の研究
- 緑色タンパク質(GFP)の発見

参考

- [ノーベル賞公式ページ](#)
- [wikipedia 下村脩](#)
- [Chem-Station 2008年ノーベル化学賞](#)

山田静之 YAMADA Kiyoyuki (1933-)



天然物化学者。名古屋大学名誉教授。
発癌性・抗腫瘍性等の生物活性を有する
天然有機化合物の研究。

経歴

1961年-1966年	名古屋大学理学部化学科 助手
1962年	理学博士
1962年-1964年	博士研究員(スタンフォード大学)
1966年-1979年	名古屋大学理学部化学科 助教授
1979年-1997年	名古屋大学 教授
1980年-1983年	日本化学会速報誌編集委員
1991年	有機合成化学協会東海支部長
1991年-1997年	名古屋大学化学測定機器センター長
1995年-1996年	日本化学会東海支部長

受賞歴

- 1968年 日本化学会進歩賞「シキミ有毒成分の構造と反応」
- 1996年 日本化学会賞「発癌性・抗腫瘍性等の生物活性を有する天然有機化合物の研究」
- 1997年 内藤記念科学振興賞「特異な生物活性を有する天然物質に関する化学的研究」

主要な研究内容および業績

- シキミ毒に関する研究
- ワラビの発癌物質探求、単離